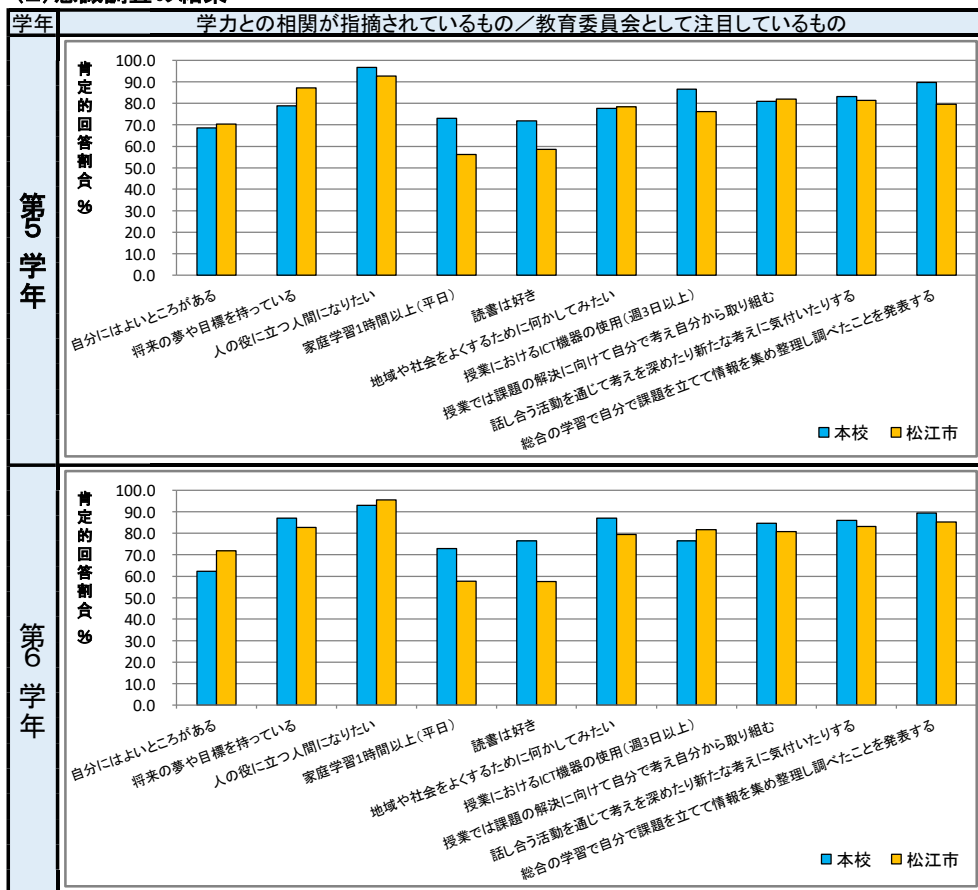


(1)教科調査の結果

学年	教科	分析(成果○/課題●)	改善策(○)	
第5学年	国語	成果	○推定全国値とどの領域もほぼ同じである。 ○下位層が少ない。	・「読み」では、段落の構成や、内容を整理する経験を積み、段落構成を自分で意識して文章を書く「書く」学習につなげる。 ・漢字の成り立ちにふれるなど、因果関係や背景などにもふれ児童が考える指導をする。 ・テストでは、まず全体を捉え時間配分を考えるなど、テストの取り組み方への対応も必要。 ・問題を解く場面では、既習事項を生かして解くことができないか、考える習慣をつける。 ・自分の考えを、分かりやすく筋道立てて説明したり、話したりする活動を今後も多く取り入れる。
		課題	●時間が足りなくてできなかった児童が少なからずおり、後半の「我が国の言語文化に関する事項」は13%低い。 ●何について読み取ればいいのかを見極めることに課題がある。	
	算数	成果	○推定全国値とどの領域もほぼ同じであり、知識・技能は10%高い。 ○計算問題などの基礎基本は力がついている。	
		課題	●思考、判断、表現の正答率が推定全国値より低く、なかでも図形の角の応用問題の正答率が低い。 ●「図形」「分数と小数」の正答率は推定全国値より低い。	
第6学年	国語	成果	○総合正答率は、推定全国値と同等もしくはそれ以上であり、特に、敬語についての問題や、「パンフレットを書く」問題についての正答率は非常に高い。 ○目的や意図に応じて自分の考えが伝わるような工夫について理解している。	
		課題	●設問の内容を正しく理解し、問題にあった答え方ができていない。 ●「物語を読む」問題では、文章の構成についての問題の正答率が低かった。	
	算数	成果	○総合正答率は推定全国値と比較して総合で5%、知識技能では7%高い。	
		課題	●思考、判断、表現については、推定全国値と比較し、1%程度低い。 ●「文字と式」は推定全国値より低かった。	

(2)意識調査の結果



＜傾向と今後の対策、分析＞

成果○:強み/伸ばしたい点 について  
課題●:弱み/改善を要する点 について

【第5学年】

- 家庭学習に取り組む児童の割合が高い。
- 読書が好きな児童の割合が高い。
- 課題に対する情報集めや発表に意欲的に取り組んでいる。
- 自分のよさに気付くことのできる取組やできるようになったことを実感できる時間を学年で計画的に取り入れていく。
- 課題の解決に意欲的に取り組めるような教材や校内研究における課題意識の継続を目指した授業づくりをすすめる。

【第6学年】

- 平日の家庭学習に取り組む児童の割合が市より高い。
- 読書が好きな児童の割合が高い。
- ICTの活用は、市の平均を下回ったが、学力は全国水準にあることから、書く活動の充実やICTの効果的な活用を継続して行く。
- 自分のよさに気付くことのできる取組やできるようになったことを実感できる時間を学年で計画的に取り入れていく。

【R7学力調査受検者数】

第5学年 89 名

第6学年 85 名

※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示